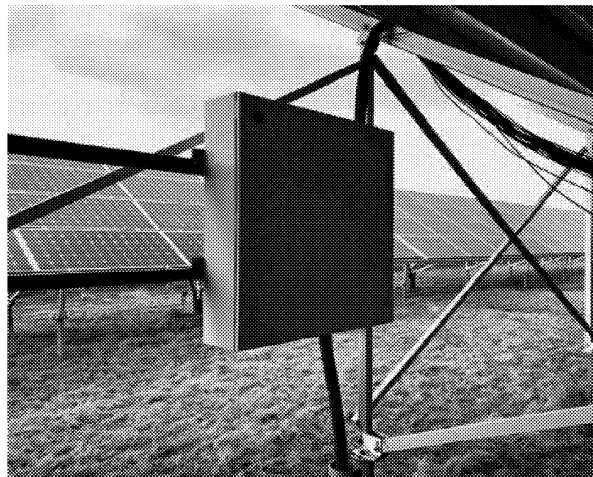


家庭用の太陽光発電設備

で起こるトラブルに、異常過熱による火災がある。産業用機器販売の大豊産業（高松市）は子会社を通じて、回路の断線などで生じる放電現象を検出、発電を止める小型機器を発売した。太陽光発電を巡っては約10年間に100件超の火災などが起きたとの報告があり、放電はその原因の一つ。安全対策を呼びかけ、新たな需要を掘り起す。

大豊G&N（東京・品川）が発売した「PVセーフシステム」は太陽光発電システムでの直流電流による放電を検出、除去する機能を持つ。太陽光パネルとパワーコンディショナー（電力変換装置）をつなぐケーブルに接続して異常過熱を防

ただ、家庭向けとしては、奥行き13センチと産業向け機器大きすぎるため設計を見直した。高さ38センチ、幅28センチと小型化。機器の製造を中



メガソーラーで使われている火災対策機器を小型化し、住宅向けに売り込む

放電検出 太陽光火災防ぐ

大豊G&Nが家庭用機器

国内企業に委託した。大豊G&Nは産業技術総合研究所と技術コンサルティング契約を結び、国内の家庭用に適合するかどうか検証を重ねた。動作確認を終え、10月から営業活動を始めた。

機器の価格は、家庭の太陽光パネルの規模にもよるが、標準的な出力3〜4キロワットで約12万円（工事費は別）。工事は1日で終わるといふ。まずは首都圏で営業していく。20年3月期に100台、21年3月期は1000台の販売を目指す。

国の消費者安全調査委員会は1月、家庭用の太陽光発電で発生した火災事故などに関する報告書をまとめた。08年3月〜17年11月までに消費者庁の事故情

（高松支局 辻征弥）